

生活習慣病予防健診結果からわかること(参考)

あなたの健診結果を参考基準値と照合してみましょう

- 健診をより理解していただくには、それぞれの検査項目の意味を理解することが大切です。検査でわかることや目的などを下表で確認しましょう。また、健診の結果から病院受診を勧められている場合は、必ず病院に相談しましょう。
- 健診結果は検査値の変化を経年的に観察していくことが重要です。結果の比較ができるように毎年保存しておきましょう！

○印: 特定健診項目(空腹時血糖とヘモグロビンA1cはいずれか一方)

□印: 特定健診の詳細な健診項目

| 健診項目 | | 特定健診項目 | 参考基準値※ | 検査でわかることなど | |
|-----------|------------------|----------|--|---|---|
| 診察等 | 問診 | ○ | — | 自覚症状・家族歴・既往症・服薬治療中の病気の有無・喫煙の有無など質問をもとにした医師の予備的診断です。 | |
| | 計測 | 身長・体重 | ○ | — | 体重が昨年と比べて変化したかに注目しましょう。急な増減は要注意です。 |
| | | BMI | ○ | 18.5～25未満 (標準は22) | 肥満かどうかわかります。 *BMIの求め方= 体重()kg÷身長()m÷身長()m |
| | | 腹囲 | ○ | 男性:85cm未満 女性:90cm未満 | 内臓脂肪の蓄積の程度わかります。 |
| | | 視力 | | 裸眼視力0.8～1.2 | 近視かどうかわかります。 |
| | | 聴力 | | 1,000Hz・4,000Hz いずれも所見なし | 難聴の有無や程度わかります。 |
| | 最高血圧(収縮期) | ○ | 140mmHg未満 | 血圧は心臓が収縮または拡張した時に血管壁にあたる血流の強さを表しています。循環器(心臓、血管)の異常のほか腎臓・内分泌・代謝系の異常を知る手がかりになります。 | |
| 最低血圧(拡張期) | ○ | 90mmHg未満 | | | |
| 脂質 | 総コレステロール | | 140～199mg/dl | 総コレステロールはホルモンや細胞膜の材料になります。多すぎると動脈硬化を起こす原因になります。 | |
| | 中性脂肪 | ○ | 150mg/dl未満 | 中性脂肪は糖分(主食・アルコール・甘いもの)の取りすぎや運動不足で増え、悪玉のLDLコレステロールを増やし動脈硬化を進めることにつながります。 | |
| | HDLコレステロール | ○ | 40mg/dl以上 | HDLコレステロールは血管にたまった悪玉のLDLコレステロールを肝臓に持ち帰る働きがあるので善玉コレステロールといわれています。 | |
| | LDLコレステロール | ○ | 120mg/dl未満 | LDLコレステロールは血管の壁に蓄積し、動脈硬化を起こし脳梗塞や心臓病の原因になるので悪玉コレステロールといわれています。 | |
| 肝機能 | GOT(AST) | ○ | 35U/l以下 | 肝細胞に多く含まれる酵素で、肝臓に障害が起こると血液中に流れ出し値が高くなります。 | |
| | GPT(ALT) | ○ | 35U/l以下 | 特に、「γ-GTP」はアルコール性肝障害で数値が高くなります。なお、GOT(AST)は心筋にも多く含まれます。 | |
| | γ-GTP(γ-GT) | ○ | 55U/l以下 | | |
| | ALP | | 340U未満 | 高値は胆汁の排泄に障害がある疑いがあります。 | |
| 代謝系 | 空腹時血糖 | ○ | 110mg/dl未満 | 高値は糖尿病の疑いがあります。食事の影響が強いため空腹時に検査をします。 | |
| | ヘモグロビンA1c(NGSP値) | ○ | 6.0%未満 | 過去1～2ヶ月の血糖の平均値がわかります。高値は糖尿病の疑いがあります。 | |
| | 尿糖(半定量) | ○ | (—) | 尿中の糖の有無を調べます。血糖値が高いときに増えることがあります。 | |
| | 尿酸 | | 7.0mg/dl以下 | 尿酸はプリン体代謝の最終産物です。高くなると痛風、尿路結石の原因になります。 | |
| 血液一般 | Ht(ヘマトクリット) | □ | 男:38.0～48.9% 女:34.0～43.9% | ヘマトクリットは血液全体に占める赤血球の割合を表します。低値は貧血の疑いがあります。 | |
| | Hb(ヘモグロビン) | □ | 男:13.0～16.6g/dl 女:11.4～14.6g/dl | ヘモグロビンは赤血球の中の物質で酸素を運ぶ働きをしています。低値は鉄欠乏性貧血の疑いがあります。 | |
| | 赤血球数 | □ | 男:400～539 (×10 ⁴ /mm ³) 女:360～489 (×10 ⁴ /mm ³) | 赤血球は肺で取り入れた酸素を全身に運び、不要となった二酸化炭素を回収して肺に送る役目があります。高値は多血症、低値は貧血の疑いがあります。 | |
| | 白血球数 | | 33～89(×10 ² /mm ³) | 白血球は体に侵入してきた細菌・ウイルス・異物・有害物等をとらえ、排除したり殺したりする働きがあります。高値は感染症の疑い、非常に高い値・低値は血液の病気の疑いがあります。 | |
| 尿・腎機能 | 尿蛋白(半定量) | ○ | (—) | 尿中の蛋白の有無を調べます。腎炎・起立性蛋白尿などで陽性の場合があります。 | |
| | 尿潜血 | | (—) | 尿中に混じるごく微量の血液の有無を調べます。腎炎・尿道炎・尿路結石などで陽性になります。 | |
| | 血清クレアチニン | | 男:1.10mg/dl以下 女:0.80mg/dl以下 | 腎機能の状態を調べます。高値は腎機能障害の疑いがあります。 | |
| その他 | 胸部X線 | | — | 肺の病気の有無・心臓の大きさ・大血管の大きさを調べます。 | |
| | 心電図 | □ | — | 心臓の状態をチェックし、不整脈・心肥大・狭心症・心筋梗塞等がないかを調べます。 | |
| | 胃部X線・内視鏡 | | — | 食道・胃・十二指腸の異常がないかを調べます。 | |
| | 便潜血反応検査 | | — | 便中の血液の有無を調べ、消化管出血の有無を調べます。 | |
| | 腹部超音波 | | — | 肝臓・胆のう・腎臓などの異常がないかを調べます。 | |
| | 眼底検査 | □ | — | 目の病気のほか、高血圧、動脈硬化、糖尿病による病変がないかを調べます。 | |

※検査結果等を判定する際の参考値となります。受診された健診機関によっては数値が異なる場合があります。

※参考値は目安となります。基準値外が即病気ではなく、総合的な判断は問診・診察等とともに判断することとなります。



全国健康保険協会
協会けんぽ